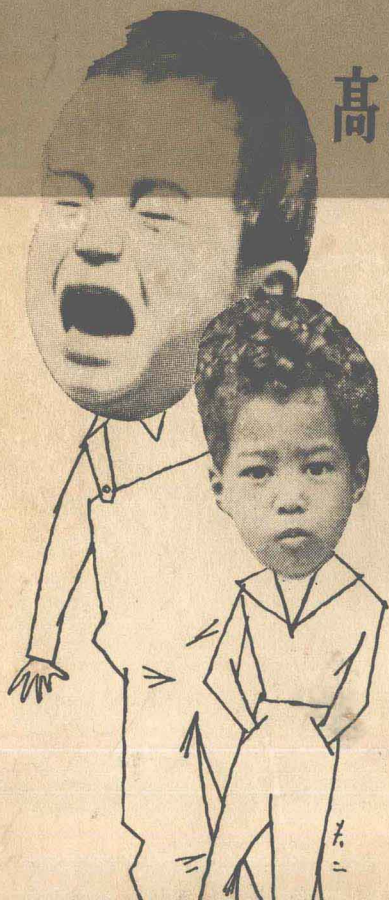


# 混血兒

高崎節子著



磯部書房

# 混血兒

序 序

神 平  
崎 林

清 たい子

高崎節子著

磯 部 書 房

# 混血兒

著者 高崎節子

定価 230 円

(地方売価 予 240 円)

昭和 27 年 10 月 25 日 発行

新 行 発

株式 同光社磯部書房  
会社

東京都千代田区神田錦町3-14

振替 東京 20288

印刷所 豊光舎印刷株式会社  
製本所 有限会社興川製本工場

## 序

平林たい子

・おもしろい本だった。そして、深刻な本だった。勿論悲しく憤おろしい本でもある。

「七つの人種が一つの芝生に」という項で、「黒いボコ」とよばれる黒人の子が、「ママちやま、ボコのお顔はどうしてこんな黒いのでちゆか、マリは白いの」とエリザベス・サンダース・ホームの沢田夫人に言う所がある。ママちやまはいそいで台所に行つて顔に煤をぬつて、「ほうれ、ボコちやん、ママちやま、おんなじね、ね、そうでしょ」

とボコを抱き上げる。読んでいて、あまりな切なさ、思はず頁をはなれてうなだれてしまふ。この憤りと悲しみをどこにもつて行つたらいいのだらう。

「神学生ボノー」の項では、真面目な神学生のG Iのボノーが、ふとしたいきさつから日本の戦争未亡人を妊娠させてしまふ。彼は、懊惱している。そして聖書をよんでいる。しかし、やつぱり、混血児を生ませる結果を招来したのである。

それが戦争なのだ、という外ないが、たゞ、憤つたり、可哀そうがつたりしたゞけではすま

されない問題である。

フィリッピンで、最初に電気椅子にかけられたのは混血児だつたとこの本もかいている。朝鮮の済洲島の日鮮混血児に、犯罪者が非常に多い話もきいている。混血児の問題は、巷の話題としては賑つていながら、政治としては、全然放つておかれている問題である。たくさんの方方によんでいたゞいて、ちつくりと考えていたゞきたい。筆者は私の友人の若い小説家で、婦人少年局の京浜地区の仕事を受けてもつインテリ婦人である。問題を多方面から眺めて、たゞぶりした情操でかいている点、問題提出の書として、最上のものだと私は信じている。

## はしがき

神崎清

山形県から神奈川県農家へ、ブローカーにつれられてきた子どもが、おおぜいあつた。新聞が子どもの人身売買事件として大きくとりあげたとき、たいいの役人が、「食事は十分だし衣類も支給される。山奥のアバラ家にいるよりも、かえつて幸福ではないか」という考え方をしていた。

そのなかでたゞ一人「でも、村のお祭の日、山形県からきた子だけが、さびしそうにかたまつていて、村の子どもととけあつていない」といつて、売られてきた子どもの不幸な影を指摘した女の役人があつた。

それが、労働省婦人少年局の神奈川県婦人少年室主任高崎せつ子君である。子どもにたいしてずいぶんするどい観察とこまやかな愛情の働く人だと感心していたが、この混血児の本のゲラ刷に目をとおして、いつそその感をふかくした。高崎君は、一個のヒューマニストとして、身売り児といわず、混血児といわず、あらゆる不幸な子どものよき友だちになつてい

のであろう。

さいきん、混血児の問題が急にさわがれるようになってきたが、その実態について調査したものは、ほとんどないといつてよい。厚生省の人口問題研究所が、混血児調査の計画を立てたとき、総司令部のPHWにおさえられたというエピソードがたわつてゐる。

養護施設を中心とした児童局の統計、施設外の町にちらばつてゐる混血児の調査、ヨコスカ市教組の部分的ながらかなり精密な調査が散見するだけで、この本のような混血児の生態にふれた報告は、全然なかつたのである。

今までのところでは、大磯の沢田美喜子夫人が、最大の発言者になつてゐる。沢田夫人の情熱と手腕には敬意を表すべきであるが、しかし、日本の混血児問題の解決は、ひとり沢田夫人にまかせきりにしておくべき性質のものではないし、また日本の国民は、アメリカから金をもらわなければ、混血児の世話ができないほどの無能力者ではない。

高崎君は、横浜へひつこしてきて、やつとみつけたアパートにはいつたとたん、となりの部屋に混血児をかかえた母親がいた、というのがキッカケで町の風俗画家のように、混血児の千姿万態をスケッチしつづけてきた。

本書は、混血児問題の論策というよりも、むしろ、丹念にあつめてきたそのスケッチの発表

である。なかなか文才のゆたかな人で、混血児の母の嘆きを描いた文章は、小説のように悲しく、子ども同志の世界にはいつた文章は、童話のようにあかるい。混血児にたいする社会の誤解・偏見・憎悪は、本書によつて、春の氷のようにとけていくであらう。

読後感の一切をこめて、私は、「この本を読まずして、混血児の問題を語るなかれ」とさえいいたいのである。





目

次

序

..... 平林たい子

はしがき

..... 神崎清

混血児の『履歴書』

..... 三

混血児の母とパンパンと

..... 三

七つの人種が一つの芝生に

——エリザベス・サンダース・ホーム——

とんねるのうちそと

..... 五

おかめ・はちもく

..... 八

白い芽・黒い芽

訪問者

..... 九

黒い子の祈り	.....	一〇五
鯉のぼり	.....	一一三
袖学生ホノー	.....	一一三
赤いハンド・バッグ	.....	一四八
夢がたり	.....	一六六
夜を待つ子	.....	一八九
チロルの鈴	.....	二一〇
高原の子	.....	二二九
マグノリアの花咲く家	.....	二四八
あとがき	.....	二六九



混  
血  
兒

高  
崎  
節  
子



## 混血児の「履歴書」

新聞記者のH氏が、頓狂な声を出して言うのである。「インテリの女たちの中には、女の可能性において、すばらしく優秀な青い目の子供を、一人だけ生んでみたい、父親がほしいのではないが、こんなことを考えている人がいる」と、そのようなことをぼそりと真面目に言つた。或友人を思い出して、或日何かの話の具合で私が言つた時のことである。H氏はすかさず言つたのである。

「そうなんですよ。うちの女房の奴がそれなんだ。昨日ね、赤ん坊を連れて買物に行つたら、まあ、可愛いよ、混血児あいのこかしら？」つて、すれちがいざまに言われたつて大喜びしてやがるんだ」



日本人は抽象と偶像が大変好きである。

自分たちより優れているという一つの抽象が白色人種を日本人の偶像にしてしまった。日本人は明治以来白色人種に心あこがれている。教育もあり、地位もあり、美しくもある日本婦人が変てこな白人などに、ころりと本気に参つてしまつたりしている。偶像化された白人崇拜教の例である。白人の前に出ると、はにかんでみたり、オリエンタル・スマイルをやつてみたりするイエス・マンになるらしいのである。しかし、祖国はロシアだと言つてる人は別かもしれないが、同じ白人でもスラブは別らしく、かつての戦敗国という抽象が「ロスケ」という奇妙な呼名の偶像をつくりあげているから、すこぶる軽蔑して心あこがれるどころではない。中国人にも朝鮮人にも、そして黒人にもこれに似たような感情を持つている。

混血児、この言葉には今日の日本人にとつては、何だかしれないが不潔な臭いもや／＼と漂つていて、においをかきかけて途中で息を止めたい気を起させる。敗戦、パンパン、混血児と結びつくからであろう。私の知つてゐるある国立大学の教授は、白人の混血児については、「不愉快なことです」と、慄然と腕を組み、黒人の混血児については、「感じが悪くて、全くいけません」と、非情の面持ちで言つた。もつともこの教授の唯一の希望は、アメリカの大学